

個別の指導計画作成システムの構築と活用による個に応じた指導の充実を目指して
Accessによるデータベース活用をとおして

宮城県立石巻支援学校 教育課程委員会
代表 副教務主任 主幹教諭 千葉信博

1 はじめに

知的障害者を教育する特別支援学校の各教科においては、児童生徒が自立し社会参加するために必要な知識や技能、態度などを身に付けるために、障害の状態や学習上の特性などを踏まえた独自の教科及びその目標や内容が示されている。また、これらを合わせた指導を可能とし、より実生活に即した指導が行われている。

しかし、本校においては、単元や一時間の授業を通して、「何が目標なのか」「児童生徒にどんな力をつけるのか」ということが不明確なまま、「〇〇をしよう」という「活動」になってしまっていることがある。また、目標を「～を楽しむことができる」とし、評価は「楽しむことができた」「がんばったからよかった」という関心・意欲・態度に関することのみでの評価となっていることも多く、知識・理解・技能といった「子どもにどんな力がついたのか」という各教科の知識・技能の評価があいまいになりがちである。これらのことは①知的障害独自の教育課程の特性が共有されていない。②指導内容表が整備されていない。③教育課程の評価が不十分で形骸化している。④個別の指導計画が、学期末の記録（通信票）と同化し、日々の指導に反映されていない。などが考えられる。

平成11年3月告示の学習指導要領で自立活動の個別の指導計画の作成が義務づけられた。その成果を受けて、平成21年3月告示の学習指導要領においては「各教科等の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成すること。また、個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善に努めること」（特別支援学校学習指導要領総則第1章第2節第4章の1（5））と各教科等についてもその作成を義務づけ、合わせて、計画に基づく実践、評価、改善のPDCAサイクルによる、個に応じた適切な指導内容や指導方法の充実を求めている。

そこで、まず、指導内容表を整備し、これらをベースとした個別の指導計画の作成システムを構築し、日々の実践を通して、教育課程の構造化と個別化を図る。また、「みやぎの教育情報化推進計画」を踏まえ、その作成・管理にICT機器を活用し、情報の共有による指導の充実と効率化を図りたいと考えた。

2 研究目標

本校独自の指導内容表をベースとした個別の指導計画の作成システムを構築し、日々の実践を通して、教育課程の構造化と個別化を図る。また、その作成・管理にICT機器を活用し、情報の共有による指導の充実と効率化を図る。

3 研究内容

1) システムの基本構想 (図1)

- ①教育課程, 指導内容表, 個別の指導計画は日々活用するものとする。
- ②日々の授業の計画, 実践, 評価が授業改善だけでなく, 指導計画全体の修正や指導内容表及び教育課程の改訂を目指す。
- ③作成・管理にICT機器を活用し, 情報共有と作成効率化のための Access によるデータベース活用システムを構築する。

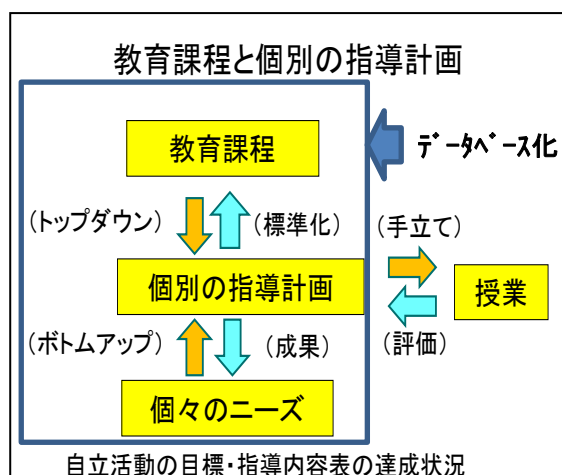


図1 個別の指導計画の構想

2) システム活用の年間計画

月	行事等	内容	担任等の取り組み
4	授業参観	年間学習計画・指導方針説明	4・5月の個別目標確認
5	家庭訪問	保護者のねがいの聞き取り	前期単元の個別目標設定
6	個別面談	単元毎目標提案 (前期分)	
7			中間のまとめ (単元の個別評価の記入)
8			後期単元の個別目標設定
9			前期のまとめ (単元の評価の記入)
10	終業式	単元毎評価報告 (前期分) 単元毎目標提案 (後期分)	
11			指導内容表の改善 (教科領域部会)
12			中間のまとめ (単元の個別評価の記入)
1			次年度教育課程編成 (各学部)
2	個別面談	学習成果、	後期のまとめ (単元の評価の記入)
3	修了式	単元毎評価報告 (前期分)	Access 次年度システム完成 (指導内容表, 教育課程, 学習集団等の Excel データのインポート: 教務) 次年度4・5月の個別目標案設定

※日々の学習計画や取り組みの様子は, 隔週発行の学級, 学年だよりで伝える。

3) 個別の指導計画システム構築の経過

《平成25年度》準備期 (PDCAの基盤づくり)

- ①年度始めに年間指導計画表を保護者に配布
- ②学習計画の概略 (単元名, 小単元名等) を学年だより, 学級だよりで保護者に知らせることの徹底。(隔週)
- ③ワーキンググループによる指導内容表の作成
- ④単元毎に個別目標 (指導内容表に基づく) を明確にする個別の指導計画の様式作成
- ⑤教育課程の類型化の検討と推進
- ⑥自立活動の「時間の指導」の時間増設と指導の充実
- ⑦外部専門家の活用 (モデルケースの共有)

《平成26年度》（試行期）

- ①個別の指導計画の活用の保護者説明（4月）
- ②前期個別の指導計画の作成と活用
- ③後期個別の指導計画の作成と活用に Access によるデータベース活用システムを導入
- ④教科領域部会による指導内容表の検討・改善
- ⑤教育課程の検討・改善（各学部・教育課程委員会）

《平成27年度》（本格実施）

- ①データベース活用の推進（校内掲示板，学校評価，進路指導，児童生徒基本情報等）
- ②自立活動の個別の指導計画のシステム連動準備

4 システムの構造

1) 計画 (P)

初めに教育課程データから個々の単元を選択し，個別の教育課程を編成する。指導内容表から単元毎の重点指導内容を選択し，個別目標とする。

(1) 指導内容表について

①系統性や内容の的確さを期するために特別支援学校学習指導要領解説を十分参考にした。段階は学習指導要領を踏まえ6段階とし，各教科の内容は相互に関連づけた。(図2)

②指導内容の取り扱いについては各単元で取り扱う指導内容を明らかにし，他の単元との関連や系統性を踏まえる。児童生徒個々の個別の指導計画の作成においては単元毎に，中心的な学習課題を指導内容表から指導内容を選択し，単元の個別目標としてその達成に努める。

③指導内容改訂については適切な指導内容表の編成と活用のために，各教科の専門の教員を中心とした教員による「教科・領域部会」を全校体制で組織し，定期的話し合いを持つ。

VI	社会	理科	職業	家庭	外国語	情報	国語	算数 数学	音楽	図工 美術	保健 体育
V											
IV											
III											
II											
I											

図2 指導内容表の構成



システム画面1 指導内容表フォーム

(2) 教育課程について

本校の教育課程は以下のような書式で示されている。(図3) 担任は生徒の実態を踏まえて、単元目標及び学習内容を具体化して単元指導計画を作成する。小学部ではこの単元は6年間実施され、様々な経験が積み重ねられる。単元名の下に示されている「・季節の変化・遊び・身近な人との関わり・表現・材料・用具」はこの単元で習得が期待される各教科の内容で、本校指導内容表の小項目にあたる。それぞれの児童の単元の目標は、実態に応じ、指導段階を検討し、示された内容を参考にして指導内容(指導目標)を選択することになる。(図4)

月	時数	単元名	単元目標	学習内容
1 ・ 2	8	冬を楽しもう ・季節の変化 ・遊び ・身近な人との関わり ・表現 ・材料・用具	○新年を迎えたことを知る。 ○冬やお正月の遊びを知り、必要な道具を作って遊ぶ。 ○新年の雰囲気味わうと共に、季節の行事に関心を持つ。 ○活動を通して教師や友達と関わる。	・新しいカレンダーを見たり、今年のえとに関する話を聞いたりして、新年を迎えたことについて知る。 ・お正月について知る。 ・お正月の遊び(たこ、すごろく、福笑い、かるた、獅子舞を見る等)の道具を作って遊ぶ。 ・雪遊び(そりすべり、雪合戦等)をする。 ・豆まきの鬼に関する作品を作った当てをして遊ぶ。

図3 教育課程の様式

・季節の変化(生活科)

季節への関心	11589	I	外気に触れて、暑い・寒いを感じる。
	11590	II	季節の行事に参加したり、自然の変化を教師と一緒に確認する。
	11591	III	夏は暑く、冬は寒いが分かる。
	11592	III	季節の行事や風物、自然の変化を手掛かりにして、春夏秋冬が分かる。

図4 指導内容表小項目例

単元名	単元目標	月	時数	内容
入学して	○新しい仲間と共に中学部の生徒になったことを知る。 ○入学して、1学期の生活について知る。 ○お正月の行事や学年の友達と一緒に調理や花壇作りに取り組み。	4月	24	新年度の生活に慣れる。 ・目標を立てる。 ・春を振り返り、 ・深める。・学習のまとめとして「1年生を頑張ろう」として、 ・お正月の行事や学年の友達と一緒に調理や花壇作りを取り組み、安全に使う。

学部	指導形態	時数	単元コード	単元名	月表示	時数	単元目標	学習内容
小学部	212	生単(中1)	21201	入学して	4月	24	○新しい仲間と共に中学部の生	①入学して、1日目の生活の流れを知り、新
小学部	212	生単(中1)	21202	電車に乗ろう	6月	20	○公共交通機関(JR)	を利用し、身近な駅について知る。
小学部	212	生単(中1)	21203	夏休みを楽しもう	6・7・8月	11	○夏休みの生活の仕方について	①夏休みの生活の仕方について知る。
小学部	212	生単(中1)	21204	水族館へ行こう	8・9月	18	○集団で宿泊する体験を通して	・ビデオや写真で、目的地や活動内容に
小学部	212	生単(中1)	21205	前期を振り返ろう	9・10月	8	○前期の活動を振り返ると共に	
小学部	212	生単(中1)	21206	作品展に向けて	11月	16	○作品展に向けて出品する物	・制作の方法や順番を話し、できるだけ
小学部	212	生単(中1)	21207	パーティーしよう	11・12月	15	○会食の計画を立て、おやつ	・簡単なおやつを準備し、計画を立て
小学部	212	生単(中1)	21208	冬休みに向けて	12月	7	○楽しかった活動や学習内容を	・ビデオ等の映像で今年を振り返り、自分

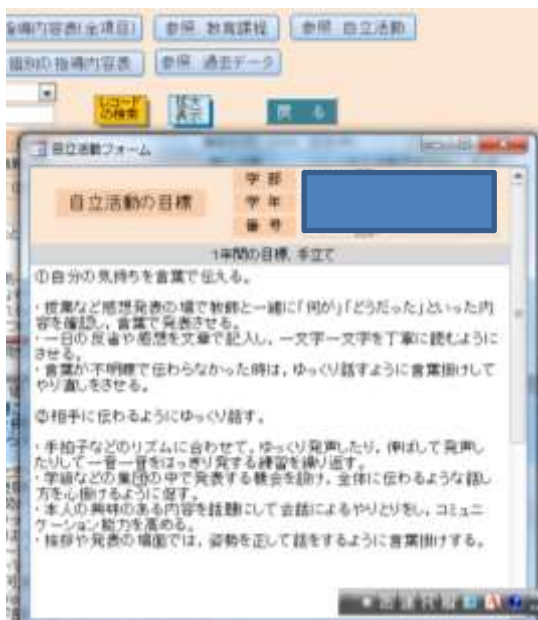
システム画面2 教育課程フォーム



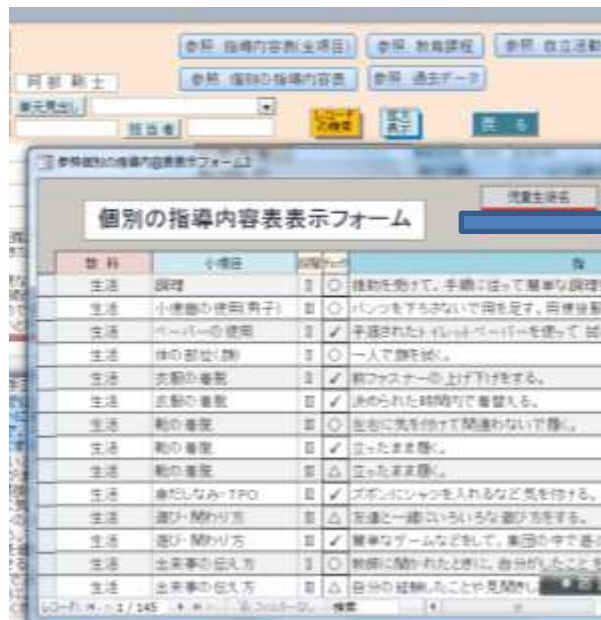
システム画面3 個別の指導計画フォーム

この作業は個別の指導計画フォームで行う。より適切な目標設定ができるように、「参照」を準備した。

- 参照：指導内容表** 「走る」「歯磨き」等の単語のみで関連する目標が検索できる。
- 参照：個別の指導内容表** 個々のこれまで取り組んだ目標や、達成状況が確認できる。
- 参照：過去データ** 過去の同一単元や、実態の類似した児童生徒の記録を参照できる。
- 参照：自立活動** 対象児童生徒の自立活動の目標や手立てを参考にして学習指導に役立てることができる。



システム画面4 自立活動参照画面



システム画面5 個別の指導内容表参照画面

(3) 保護者との連携

年度初めに指導内容表の冊子を保護者に配布しておく。その上で6月に実施する個別面談で、選択した単元および個別目標の一覧を印刷して保護者に説明し、理解を求める。後期については、前期末に、前期評価とともに保護者に提示する。印刷は個別の指導計画一覧フォームで様式を選択して様々なパターンで出力できるようにしてある。

(システム画面6 個別単元・目標一覧参照)

平成 []			個別の指導計画 []	
題材・単元名			個別目標	
日常生活の指導(中)			①立ったまま履く。	
月	通年	時数	98	靴の履脱(Ⅲ)
朝の活動 ・身なり ・身の回りの整理 ・持ち物 ・目撃と他者			②発音、速さ、声の大きさに気を付けて語をする。	
			話し方(Ⅳ)	
日常生活の指導(中)			①姿勢を正して、行儀よく食事をとる。	
月	通年	時数	196	食事(Ⅲ)
昼の活動 ・食事 ・清潔 ・清掃 ・感謝言葉			②手渡されたトイレトペーパーを使って拭く。	
			ペーパーの使用(Ⅱ)	
日常生活の指導(中)			①前ファスナーの上げ下げをする。	
月	通年	時数	98	衣服の履脱(Ⅱ)
掃りの活動 ・身なり ・身の回りの整理 ・持ち物 ・身近な人との関わり			②自分で使用したものは自分で片付ける。	
			必要なものの整理(Ⅱ)	
生活単元学習(中・全学年)			①学級の中で、仲間と関わりながら一緒に活動する。	
月	5月	時数	21	集団参加(Ⅳ)
運動会を成功させよう ・体操、歩・跳・走・リレー、用具や遊具を使った運動、ダンス・集団ときまり				

システム画面6 個別単元・目標一覧印刷画面

2) 実践 (D)

授業実践においては次のように活用する。まず、実践の前に学習集団を確認し、目標達成のための手立てを検討し、授業作りを行う。単元の学習者全員の目標一覧を印刷し参考にする、TT間で個々の目標や指導の手立てを共有することができる。

平成 28 年度			中2前期		個別の指導計画 []	
題材・単元名			個別目標			
生活単元学習(中2)			①公共交通機関(電車、バスなど)を利用する。			
月	6・7月	時数	23	公共交通機関の利用(Ⅳ)		
仙台へ出かけよう (利府宿泊学習) ・公共施設の利用 ・交通機関の利用 ・日常生活のきまり			②時計を確認するなどして、次の時間に遅れないように早めに行動する。			
			手帳(Ⅳ)			
生活単元学習(中2)			①公共の場所で大人と一緒に順番を守ったり、安全な遊び方をしたりする。			
月	6・7月	時数	23	利用のマナー(Ⅱ)		
仙台へ出かけよう (利府宿泊学習) ・公共施設の利用 ・交通機関の利用 ・日常生活のきまり			②教師と一緒に電車やバスなどを利用する。			
			利用の手順の理解(Ⅰ)			
生活単元学習(中2)			①教師と一緒に公共施設の利用を経験する。			
月	6・7月	時数	23	公共施設の利用(Ⅰ)		
仙台へ出かけよう (利府宿泊学習) ・公共施設の利用 ・交通機関の利用 ・日常生活のきまり			②体や顔を洗ってもらうことに慣れる。			
			入浴(Ⅰ)			
生活単元学習(中2)			①公共交通機関(電車、バスなど)を利用する。			
月	6・7月	時数	23	公共交通機関の利用(Ⅳ)		

システム画面7 単元目標一覧印刷画面

3) 評価 (C)

実践の後、評価を記入する。前期、後期の学期末にすべての単元について、その評価を保護者用個別の指導計画ファイルに綴じ報告する。印刷は個別の指導計画一覧フォームで出力様式を選択して行う。

題材・単元名	個別目標	手立て・評価
生活単元学習(小5・6)		
月 1・2 時数 8 冬を楽しもう ・季節の変化 ・遊び ・身近な人との関わり ・表現 ・材料・用具	①指示に応じて階段や段差などに注意して歩く。 危険回避(Ⅰ) ②季節の行事に参加したり、自然の変化を教師と一緒に確認する。 季節への関心(Ⅱ)	①寒さを感じることができるように、外に出て教師と一緒に足場の悪い雪の上や氷の上を歩く練習に取り組むようにする。 ②自分のたこということが分かるように自分の顔写真入りのたこを作って、教師と一緒にたこ揚げを経験する。 ①雪が降った時や道路が凍結した時には、。始めは、凍っている場所を見つけると走って近づいていくが多かったが、滑ってしまう感覚を経験することで、「ゆっくり歩きます。」という教師の言葉掛けを受けながら、少しずつゆっくり歩くことができるようになってきた。 ②「たこ作り」では、太い線の場所をはさみで切ったり、紙を折り返したりと、教師と一緒に作ることができた。完成したたこを使ったたこ揚げでは、教師がたこを持ち、「せーの」の合図で走り出すようにすると、2～3mを全速力で走ってたこを揚げることができた。
生活単元学習(小5・6)		
月 2 時数 10 春よ こい(5年) (お楽しみ会②) ・季節の変化 ・遊び ・食事 ・清掃	①教師と一緒に歩道や道路の端を歩く。 歩行の仕方(Ⅱ) ②何を買いに来たのかが分かり、必要な買い物をする。	①道路を歩くときには、歩く場所や歩く速さが分かるように、教師と手をつないで右側を歩くようにする。 ②事前学習では、6～7個の商品の中から好きなお菓子を選ぶ→レジでお金を払う→商品を受け取る→挨拶をする、までの流れを教師と一緒にできるように練習をする。

システム画面 8 単元手立て評価一覧印刷画面

4) 改善 (A)

後期評価と並行して学部毎に次年度の教育課程を検討する。個々の児童生徒に適切な目標設定ができ、指導成果が上げられるよう改善する。また、教科・領域部会では、各教科の専門性の視点も生かし、指導内容表の改訂を行う。まず、Excel データとして編集し、紙媒体として印刷製本するとともに、Access の個別の指導計画にインポートする。

項目コード	教科名	段階	大項目	中項目	小項目	指導内容
11001	生活	I	基本的な生活習慣	食事	食前	教師と一緒に食前に手を洗う。
11002	生活	II	基本的な生活習慣	食事	食前	促されると食前に手を洗う。
11003	生活	III	基本的な生活習慣	食事	食前	自分で気付いて一人で食前に手を洗う。
11004	生活	I	基本的な生活習慣	食事	食前	配膳の時、大人と一緒に座って待つ。
11005	生活	II	基本的な生活習慣	食事	食前	配膳の時、座って待つ。
11006	生活	III	基本的な生活習慣	食事	食前	配膳の時、全員が前座で行儀よく待つ。
11007	生活	I	基本的な生活習慣	食事	配膳	教師と一緒に、自分の食器を並べたり、片付けたりする。
11008	生活	II	基本的な生活習慣	食事	配膳	給食の配膳時に種類別の食器を並べたり、片付けたりする。
11009	生活	III	基本的な生活習慣	食事	配膳	複数の食器の準備や片付けをする。
11010	生活	I	基本的な生活習慣	食事	挨拶	そばにいる教師と一緒に食前・食後の挨拶をする。
11011	生活	II	基本的な生活習慣	食事	挨拶	当番の号令に合わせて、食前・食後の挨拶をする。
11012	生活	I	基本的な生活習慣	食事	用具の使用	食べ物が口元に近寄ってくる時、口を開けて食べよと示す。
11013	生活	I	基本的な生活習慣	食事	用具の使用	自分の食べたい物に視線を向けたり、顔を近づけたりする。
11014	生活	I	基本的な生活習慣	食事	用具の使用	食べたい物に自分から手を伸ばし、つかんで口に持っていく。
11015	生活	I	基本的な生活習慣	食事	用具の使用	手づかみで食べる。
11016	生活	I	基本的な生活習慣	食事	用具の使用	小さな食べ物を指でつまんで食べる。
11017	生活	I	基本的な生活習慣	食事	用具の使用	前歯で噛みきって食べる。

システム画面 9 指導内容表 Excel データ

5 研究の結果

1) 学校評価の結果

本校では毎年11月に保護者による学校評価アンケートを踏まえ、全職員による学校評価を実施してきた。本システムの準備に入った平成25年度から平成27年度までの教育課程に関する評価については表1のような結果が出ている。どの項目についても肯定的評価が増加し、本校職員は教育課程の改善が進み、個に応じた指導が図られてきていると感じていることが伺える。

評価項目	評価平均			肯定的評価		
	25年度	26年度	27年度	25年度	26年度	27年度
1 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程を編成することができたか	2.82	3.01 ↑	3.08 ↑	66.3 % ↑	79.8 % ↑	85.3 % ↑
2 児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指し、キャリア形成の視点を踏まえた小・中・高一貫した教育課程を編成することができたか	2.59	2.77 ↑	2.84 ↑	46.3 %	62.6 % ↑	71.0 % ↑
3 障害の重度・重複化、多様化に対応し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を一層充実させることができたか	2.86	2.93 ↑	2.94 ↑	66.3 %	75.3 % ↑	79.2 % ↑
4 外部専門家を積極的に活用しながら、個別の指導計画の作成充実、改善を図り、適切な活用を推進することができたか	2.83	2.88 ↑	3.02 ↑	61.1 %	69.7 % ↑	76.2 % ↑
5 個別の指導計画の適切な活用に関わるシステムを構築するため、通信票との一体化を進めることができたか	2.73	2.88 ↑		56.8 %	66.7 % ↑	

※評価基準及び得点を「よくできている。」(4点)「大体できている。」(3点)「あまりできていない。」(2点)「できていない。」(1点)とし、「よくできている。」「大体できている。」を肯定的評価とした。

表1 平成25年度から平成27年度までの教育課程に関する評価結果の推移

2) 保護者アンケートの結果

(1) 個別の指導計画による学習成果の報告に関する保護者アンケートの結果

平成25年度までの通信票「あゆみ」は学期末に各指導の形態毎に特に保護者に伝えたいと思う単元の一つを選び「目標」と「手立て・評価」を簡潔に記述したものだ。また、学校保管の個別の指導計画も同様の内容だったが、平成26年度から、通信票「あゆみ」を廃止し、実施した単元毎に「目標」「手立て」「評価」を記述した個別の指導計画を月期末に保護者に配布する新システムに移行した。前期はAccessによるデータベース活用システムはまだ導入していなかったがこの新システムに関する保護者アンケートを実施した。

その結果、約4割の保護者が個別の指導計画になり良かったと回答し、好意的に受け止めていた。自由記述では、「学習の様子が詳しく記述されており分かりやすい」という意見が多く見られた。また、「学校の取り組みを家庭で実践することができる」内容の意見もいくつか見られた。その一方で、約2割の保護者が「通信票あゆみ」の方が良かったと回答し

ていた。自由記述では、「量が多すぎて読むのが大変」「細かすぎて分かりづらい」という意見がほとんどだった。「作成の労力を学習の準備等に回して欲しい。」という内容の意見もみられた。学習課題や取り組みの様子、その成果について家庭と学校が共有できたことは大きな成果だったが、情報量の整理と読み易い記述の在り方の検討が課題となった。

評価項目	小学部	中学部	高等部	計
個別の指導計画になって良かった	14人	13人	31人	58人
通信票「あゆみ」の方が良かった。	6人	9人	14人	29人
どちらでもよい	8人	12人	15人	35人
分からない	8人	8人	14人	30人
計	36人	42人	74人	152人

表2 個別の指導計画による学習成果の報告に関する保護者アンケートの結果

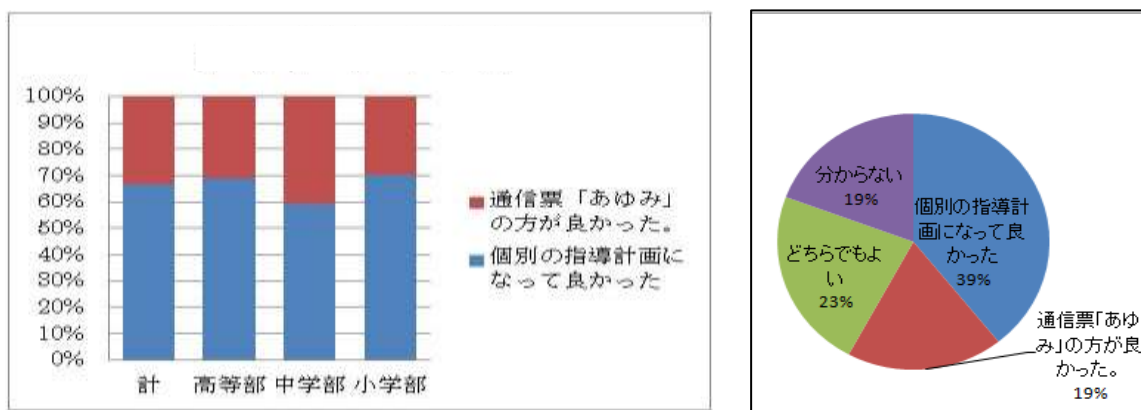


図5 個別の指導計画による学習成果の報告に関する保護者アンケートの結果

(2) 学校評価保護者アンケートの結果

平成25年度から平成27年度までの個に応じた指導に関する評価については表3のような結果が出ている。本システムを実施した平成26年度に肯定的な評価が伸び、その水準を維持しているといえる。

評価項目	評価平均		
	25年度	26年度	27年度
1 教員は、お子さんのことをよく理解し、適切に対応している。	3.50	3.60 ↑	3.59 →
2 教員は、お子さんに合った課題を設定し、教材・教具を工夫しながら、分かりやすい授業を行っている。	3.45	3.56 ↑	3.55 →
3 お子さんに合った、基本的な生活習慣や社会生活に必要な力が身に付いている。	3.23	3.39 ↑	3.38 →

※評価基準及び得点を「よくできている。」(4点)「大体できている。」(3点)「あまりできていない。」(2点)「できていない。」(1点)とする。

表3 平成25年度から平成27年度までの教育課程に関する評価結果の推移

3) 教師の取り組みの変容

①システムの活用を通し、教育課程、指導内容表、個別の指導計画を基に、単元毎に一人一人の児童生徒の目標を明らかにしながら授業づくりが進められるようになった。また、目標設定や手立て、評価についての指導者間の話し合いや、蓄積されたデータの共有と容易な活用を可能にすることにより、教員間の学び合いが見られた。

②単元毎の個別の目標設定、実践、評価の日常的な取り組みが、授業改善のみならず指導内容表及び教育課程の改善の必要性も意識されるようになった。各学部のみならず、教科・領域部会、教育課程委員会等において全校体制での組織的な取り組みが推進された。

6 結果の考察

学校評価や、学校評価保護者アンケートの「教育課程が改善され個に応じた指導が充実してきている。」という結果は、指導内容表と教育課程の日常的な活用を基本としながら、教育課程の個別化を図るとともに、データベースを活用し教員間で情報を共有するという本校の個別の指導計画システムの有効性を表したものと思われる。

また、システムに蓄積された過去データや自立活動の個別目標の参照機能の追加や、指導内容の検索システムの向上など、データベース活用の付加価値を高めたことも、よりの確な個別目標と手立ての設定、実践の評価が可能にしたと思われる。個別の指導計画のみならず、校内掲示板や学校評価、進路情報システム等、より多くの機会に Access を活用することで、職員の Access の利用への抵抗をなくし、その利便性の理解に繋がったとも思われる。

7 まとめと今後の課題

「知的障害教育における組織的・体系的学習評価の推進」(国立特別支援教育総合研究所)では、学期毎のロングスパンの計画・評価では、教育課程の改善に結びつきにくいと報告されており、本校が単元毎のミドルスパンでの計画・評価としたことは有益だったと思われる。データベースを活用することで、情報の共有による指導の充実と教育課程の改善を可能にしたことは、全国的な課題に向き合う評価システムとしての意義も大きいと思われる。しかし、きめ細かな計画や評価への取り組みには、相応の専門性と時間が必要である。今後、目標設定や評価等の話し合い、教材準備の時間の確保がこれまで以上に望まれている。また、データベースの情報共有による教員間の学び合いをさらに進める必要がある。

《参考文献》

- 「特別支援学校における幼児・児童・生徒のライフステージに応じた新たな教育課程の開発」(東京学芸大学附属特別支援学校)
- 「知的障害教育における組織的・体系的学習評価の推進」(国立特別支援教育総合研究所)
- 「特別支援学校学習指導要領解説」(文部科学省)